

令和6年度第2回学校運営協議会 記録

日 時 令和7年2月12日(火)

9:30～11:30

場 所 小中学部校舎音楽室

○出席者

学校運営協議会委員5名 B委員(地域関係者)
C委員(地域関係者)
D委員(企業関係者)
E委員(社会福祉関係者)
F委員(PTA関係者)
(A委員(社会福祉関係者)欠席)

学校関係者9名 校長、副校長3名、事務長、総括教務主任、
小学部主事、中学部主事、高等部主事

～ 授業参観 ～

次 第

I 開会のことば

II 校長あいさつ

III 協 議

1 令和6年度学校経営計画について

・令和6年度の学校評価について

2 令和6年度の主な事業の実施状況について

(1) 特別支援教育のセンター的機能について

(2) 交流学習及び共同学習について

(3) 学校閉校週間について

(4) 中学部・高等部の進路状況について

3 令和6年度のいじめアンケート及びいじめ認知について

4 その他

・第8回特別支援学校技能認定会結果について

IV その他

V 意見・提言

VI 閉会のことば

資料訂正について

- ・岩手県最低賃金 R6, 10, 27 より 952 円に変更

《授業見学》 9 : 35～10:15

- ・小中学部 授業参観

次 第

I 開会のことば (10:20)

II 校長あいさつ

授業参観について、子供たちは明るく元気に生活している。見学・参加された委員への謝辞。

本校では、今年度も児童生徒の社会参加と自立を目指し取り組んできた。生活習慣や読み書き、算数、働くこと、友達とのやり取りなどを学んでいる。

忌憚のないご意見を伺い、次年度の学校運営に役立てていきたい。

III 協議

1 令和6年度学校運営状況について

- ・令和6年度の学校評価について（小学部副校長）

内容説明（資料より）

○B 委 員 : P2「算数・国語の授業時数を増やしてほしい」とある。去年はこのような意見はあったのか？

高等部主事 : 保護者からの意見は出ていなかったが、中学部や中学校とのつながりを考え、数学の時間を1時間増やして時間割に組み入れた。

B 委 員 : 保護者も不安があつての意見と考える。ぜひその考えを取り入れてほしい。

B 委 員 : (4) ブログの更新について・・・保護者に伝わっていないのでは。どのくらいの頻度で更新を行っているのか。

中学部副校長 : 行事ごとに学部や学年でブログを上げている。当初は担当者も慣れておらず戸惑っていた様子が見られたが、最近は高頻度で更新している。

B 委 員 : インフルエンザによる学級閉鎖はあったのか教えてほしい。

小学部副校長 : ない

B 委 員 : 働きがいのある職場か？の質問に対し、どちらかというと思わないが一定数ある。丁寧な聞き取りをお願いしたい。一つ一つ改善をしていただきたい。

3 (2) に授業改善とある。お互いに授業を見合う互見授業参観を実施しているのか。

小学部副校長 : やっている。授業が見られない場合はクラウドにあげて、後日見ることができるようになっている。

C 委 員 : P2に、保護者からタブレットの学習について、利用できていないということが書かれているがどうということか。

高等部主事 : 高等部では1人1台のタブレット端末を持つことになっており、4月の入学時に委任状を保護者に書いていただき、購入している。購入に

関しては、諸手続きを踏んだ後となり、また、各生徒個人の設定を職員が行ってからのタブレット使用となるため、生徒が使うことができるのは11月以降になっている。そのため、1年生の保護者から、このような意見が出たものとする。

C 委 員 : 登校時間が遅いとは一部の生徒ですか。

小学部副校長 : 1名です。受け入れ時間が8:30から8:50ということで、保護者によっては8:30より前に受け入れていただきたいという意見のことだと思う。

C 委 員 : 挨拶をしない職員が多いということであるがどのようなことか。

校 長 : 真摯に受け止めている。職員会議等でも全職員と情報を共有している。

C 委 員 : 八幡平市からの通学バスについての希望があるが、出すことができるのか。

校 長 : 県教委と情報共有しているところである。

C 委 員 : 学習机と椅子の老朽化について。

高等部主事 : 椅子のへりの部分が欠けた状態のものが多い。椅子の座席マットを敷いて対応しているものもある。また、事務に状況を伝え、購入を検討していただいている。

事 務 長 : 校舎が古く、補修が必要な箇所が多い。優先順位を付けて進めている。施設の大きな修繕については、個別に県への予算要求をして行っている。

C 委 員 : 働き方改革について、職員間のコミュニケーションが大切だと考えるが、その時間がとれるのか。児童生徒を指導する職員のコミュニケーションがうまく取れないと、児童生徒にも影響が出てくると考える。また、働き方改革改善のため、行事を減らすことも、生徒の成長に影響すると考える。行事を減らしている学校も多いが、私は違うと考える。検討を続けてほしい。

D 委 員 : 保護者アンケート(3) 児童生徒の社会的支援…について、昨年に比べて今年の評価が上がってきているが、学校側として何かされた結果なのか。

高等部主事 : 進路関係の流れややり方は変えていないが、保護者面談における一人一人の生徒や保護者への担任対応や、長期休業中の進路見学や実習においての担任や進路担当職員の対応など、細やかに対応していることへの評価と考える。

D 委 員 : 企業として、手伝えることがあれば、お手伝いしたいと考えている。

E 委 員 : アンケートの回収率に関して、端末を使ってフォームズで行っているが、回収率について知りたい。

小学部副校長 : フォームズでの回答を始めて2年目である。昨年度より回収率が上がっている。一昨年の紙面のみでの回収率よりは8パーセント低くなっているが、あまり変わりはない。職員の仕事の効率面を考えて、取り入れている。

E 委 員 : 紙の方が回収率がいいようではあるが、これからの時代として適していると考え。

アンサーはどのような形で行っているのか。

小学部副校長：学校評価の報告は、本日の会議を経た後、誌面とホームページで全体への報告を行っている。

E 委 員：職員アンケートの(2)の設問4のパーセンテージが減ったということで、職員の学びの姿勢と期待の表れと考える。先生方が、もっと上を目指さなければと考えていることが分かり、頼もしく感じる。今後も資質の向上に努めてほしい。

保護者アンケート(4)特別支援の役割について、小中学校の特別支援学級と支援学校に通っていることの違いを発信してほしい。さらに、プレスリリースの積極的活用とはどういうことか。

中学部副校長：本校の取り組みを広く多くの方に知っていただきたいという思いで、新聞マスコミへの活動を進めていくことである。

校 長：子供たちの頑張りを知ってほしいという思いがある。

F 委 員：中学部、高等部の生徒のアンケート回答率が100パーセントでないのはどういうことか。

小学部副校長：高等部では、不登校気味で欠席の生徒がおり、中学部では、重複の生徒で回答が難しい生徒がいたためである。

F 委 員：P4「先生方のコミュニケーション不足」ということに関して、他の保護者からの話ではあるが、『(保護者が)担任の先生に伝えていることは副担任の先生方にも伝わっていると思っているが、そうではない』と聞いている。このようなことに対して、保護者として不安な思いがある。また、子供のことで電話した際、『それは副担任がやったことなので知りません』との回答もあった。

早急な対策を検討していただきたい。

保護者アンケートの中に、算数や国語を増やしていただきたいと考えられている保護者もいるが、そこを望まない保護者や生徒もいると思う。選択授業は可能なのか。

校 長：教科の学びについてですが、指摘のとおりであると考え。文部科学省から学習指導要領改訂において、教科をしっかりと教えていくようにという指導が入った。ただし、進学のための教科ではなく、生活に直結するような教科学習を進めてほしいということである。

本校では、令和9年度に向け、教育課程を変更するような研究を進めている。教科等を合わせた指導の中でも、教科を重視した内容で進めていこうと考えている。また、教科学習をきちんと生活の課題と結び付けながら教科別の学習を進めることもできる。子供たちの意向を踏まえて進めようと考えている。

F 委 員：職員アンケートの設問4、学習指導要領に根差した年齢と発達段階に応じた学習活動の展開とあるが、身の自立を含めたものか。

小学部副校長：はい。

C 委 員：今の考えを聞き、私の経験から、生活単元的な学習が支援学校の役目ではないかと考える。国語・算数は基本であるが、その子供に合わせた時間が取ればよいと思う。現在ことりさわ学園に勤務しているが、生活が主となり、生活の中で学んでいる。生活とともにというのが特別支援学校の根幹だと考える。小中高と成長していく中での一連の考

えとして取り組んでいってほしい。だからこそその支援学校であると考ええる。

2 令和6年度の主な事業の実施状況について…資料説明（高等部副校長）

<質疑応答>

C 委 員 : 校内で相談担当を専門にされている先生は何人いるのか。

高等部副校長 : 6名である。

C 委 員 : 他の職員に負担が掛かるのはやむをえないことですね。

校 長 : 中核コーディネーターがいるので、その方々が徐々に役割を担っていくことになっている。

F 委 員 : 中核コーディネーターは支援学校の免許をもっている方か。

校 長 : 支援学校の免許をもっている方が配置されている。

E 委 員 : 進路も大事だが、子供たちを支える人を増やすことが大事だと考える。学校間交流を活発にやられているが、本学園での職員採用面接をしていると、支援学校への見学・実習経験があるという方が多い。非常に大事な取り組みだと考える。

3 令和6年度のいじめアンケートおよびいじめ認知について（高等部副校長）

・取組基本方針など、教職員で共有している。

・保護者からのアンケート、生徒からの生活アンケートを実施している。

<質疑応答>

E 委 員 : いじめや暴力には、障害に起因することがある。本施設でも、子供が集団でいれば、起こりうることであるので、職員研修等を行いながら心を砕き見ている。見えない部分（氷山の下）への理解をしていかなければならない。加害生徒を見ていると、職員のしぐさや言葉、予測しない音などがトリガーとなっていることが予測できる。過去の嫌な経験が思い出され、他者を叩くなどの行為が出てくることがある。氷山の下部分を理解しながら、心を砕きながら向き合っていただければと考える。

高等部副校長 : 児童生徒を観察しながら見守っていきたいと考える。

C 委 員 : 本施設でもよくある。いじめを起こした後の加害者への対応について、指導員の対応の仕方や態度、姿勢が大事だと考える。対応している最中に職員に向かってくる子供もいる。その際の対応として、大声を出している職員もいた。加害には背景がある。トラウマを抱えていると考えながら子供たちを見て対応したほうがいい。また、職員が2人体制で対応し、加害者に対しての対応を十分にはらっていかねばならないと考える。起きた後の対応が大事と考える。

いじめ基本方針（案）の承認 をいただく

IV その他

C 委 員 : P24 第8回岩手県特別支援学校技能認定会への参加者は全体で何人か。

高等部副校長 : だいたい60名ぐらい

C 委 員 : P14 自治体との交流として、自治会への作品出展等感謝している。地域に対して、この学校の紹介にもつながる。今年も実施予定である。引き続きよろしく願いたい。

V 意見、提言
特になし

校長より：長時間にわたる会への参加を感謝

今後、職員への挨拶の在り方をしっかり伝えていく

教育課程への意見、専門性や人材育成、進路、いじめに対してなどのご意見を次年度に生かしていきたい。

VI 閉会のことば